

### 自己評価票

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>I. 理念に基づく運営</b>			
<b>1. 理念と共有</b>			
1	○地域密着型サービスとしての理念  地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	地域密着型サービスの役割については、全スタッフが周知しており、また事務所独自の理念も作っています。	
2	○理念の共有と日々の取り組み  管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念をベースとして、どのようなケアを提供するかプランニングしています。全スタッフが同じ目標をめざしていないと良いケアとは言えませんので日々、理念について再認識しています。	
3	○家族や地域への理念の浸透  事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる	事務所内に利用者や家族等が見やすい場所に理念を提示しています。その他に朝の体操時皆さんへ、宣時、理念についてお話ししています。	○ 近況報告をお伝えする時に、家族様にも理念について説明していきたいと思っています。
<b>2. 地域との支えあい</b>			
4	○隣近所、地域とのつきあい及び地域貢献  管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけあったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるよう努めている。事業所は地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている。また、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる。担当職員はキャラバンメイトになるなど、地域の認知症普及活動に参加している。	見学、実習生、ボランティアを常時受け入れしています。地域の児童館の慰問を受け入れ、子供たちにお年寄りと交流できる場を提供しています。町内の会報に当事業所の紹介文を掲載して頂き、地域の方になじみのある施設であると普及活動に努めています。	○ 自治会の地域活動へ参加できるようにしていきたいと思っています。

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)	
<b>3. 理念を実践するための制度の理解と活用</b>				
5	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	外部評価の必要性について、全スタッフに説明し、ケアをオープンにすることによりケアの質の向上につながることを全スタッフは理解しています。	○	外部評価の結果を基に、改善策の計画を策定し、今後のより良いケアサービスの提供に取り組めます。
6	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議の意義や役割りについて納得はしていただいております。外部評価の結果を公表し、改善策を報告して、皆さんから意見を頂いており、向上につなげています。	○	今回の外部評価の結果についても、改善策を報告し、意見交換を行い、サービスの質の向上につなげたいと思っています。
7	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、運営や現場の実情等を積極的に伝える機会を作り、考え方や運営の実態を共有しながら、直面している運営やサービスの課題解決に向けて協議し、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市町村へホームのパンフレットや広報誌を配布しています。(営業部担当) 必要に応じて諸問題に対しても、行政と連携を図っていこうと思っています。		
8	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	管理者は地域権利擁護事業、成年後見制度の外部研修(H18年)に参加し、それを基に全スタッフに対して勉強会を行い、その必要性をスタッフ全員理解しています。	○	必要に応じて利用者、ご家族様へも情報提供していきたいと思っています。
9	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	管理者は虐待防止関連法の外部研修(H18年)に参加し、全スタッフ対象に勉強会を行い、当施設で絶対なされないよう随時啓発しています。		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>4. 理念を実践するための体制</b>			
10	○契約に関する説明と納得  契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時、契約改訂時には事業所の理念やケアの方針、改訂内容を十分に説明しています。その同意を得ています。退居時も同様です。また、退居先へは情報提供を行っております。	
11	○運営に関する利用者意見の反映  利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者様から、不満、苦情について聞き出せるよう話しかけを行っております。また、その表情から不満をサッチするよう、常に気配りしています。	
12	○家族等への報告  事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	利用者様の暮らしぶり、健康状態、受診状況を口頭でお伝える他、文章にでも配布しております。金銭管理も月1回領収書と共に報告しております。スタッフの移動についても報告しております。	
13	○運営に関する家族等意見の反映  家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	事業所内に苦情受付窓口や外部の苦情受付窓口について提示しています。宣時、ご家族に意見、不満、苦情がありませんかと声をかけたり文章で明示しています。	○ 家族様から苦情が出た場合、すみやかに原因その背景を調査し対策を講じます。
14	○運営に関する職員意見の反映  運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	スタッフから意見が出された場合、その意向を検討し、決定事項に反映させています。	
15	○柔軟な対応に向けた勤務調整  利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	利用者様のための人員配置となっています。急な休みに対しても、事業所内だけでなく、応接を要請できる体制が整っています。	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
16	○職員の異動等による影響への配慮  運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	認知症の方は新しい事実に途惑うことが多く、スタッフの異動は不安をあたえることが懸念されますので、十分に説明を行っています。また最小限にしています。		
<b>5. 人材の育成と支援</b>				
17	○職員を育てる取り組み  運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	個々の力量に応じた研修を受講させたいと思っています。また受講後は報告書作成し、他スタッフ全員に研修内容を報告しています。また、受講時の勤務体制も配慮しています。スーパーバイザーも確保されています。		
18	○同業者との交流を通じた向上  運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	同業者とネットワークを組み、必要に応じて情報交換し、サービスの向上につなげています。	○	パブリックな同業者の協議会・ネットワークに加入していきたいと思っています。
19	○職員のストレス軽減に向けた取り組み  運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための良好な工夫や環境づくりに取り組んでいる	スタッフの意見やストレスを聞く機会をもつようにしています。休息时间、休憩場所（たたみ）も確保されています。		
20	○向上心を持って働き続けるための取り組み  運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	年2回、健康診断が実施されています。また、就業規則があり遵守されています。		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>			
<b>1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応</b>			
21	○初期に築く本人、家族との信頼関係  相談から利用に至るまでに本人、家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	サービス利用の相談があった場合には、利用希望者、ご家族様と面談し、直接話しを聞いています。また、利用希望者の身体状況、思い、希望、ニーズ及びご家族の思い、希望に、ニーズを把握するように努めています。その場合、信頼関係が築けるよう対応しています。(担当:営業部門)	
22	○初期対応の見極めと支援  相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人、家族様のニーズにきちんと対応しています。必要なサービスの調整を提示し、必要とあれば地域包括支援センター等の関係機関との連携を図っています。(担当:営業部門)	
23	○馴染みながらのサービス利用  本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	相談受付段階から、ご利用者の思いを十分くみ取り、それに応じるよう、支援を展開させています。(担当:営業部門)	
<b>2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援</b>			
24	○本人と共に過ごし支えあう関係  職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	いろいろな話しかけを行い、喜怒哀楽を共感できるようにしています。また、洗濯行為の得意方には洗濯を、炊事は当番制にして一緒に行っています。(強制ではなく同意を得て)	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
25	○本人を共に支えあう家族との関係  職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	遠方の家族の方もいらっしゃるので、回数は多くとは言えませんが、できる限り、ご家族様の意向を知り、それが日々のケアに活かせるようにしています。		
26	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援  これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	近況報告を毎月ご家族へお出ししています。また、受診状況をその度知りたいという希望の家族へは瑞市電話で報告したり、手紙をご本人のかわりに代筆したり、電話でお伝えしています。		
27	○馴染みの人や場との関係継続の支援  本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご本人の馴染み人や場所をご本人ご家族より聴取し、把握しています。お友だちと会食したいという希望には、スタッフが同行して交流が継続できるよう支援しています。		
28	○利用者同士の関係の支援  利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	利用者同士の人間関係を把握し、孤立しないよう配慮しています。シルバーカーの位置を直してあげる等、皆さん助け合いながら生活されています。		
29	○関係を断ち切らない取り組み  サービス利用（契約）が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	サービス終了後も相談等ございましたら、いつでも対応していきたいと思っております。		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>			
<b>1. 一人ひとりの把握</b>			
30	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者本人、ご家族様の思いや希望、意向を折りにふれ、お聞きし、把握するように努めています。また、なかなかコミュニケーションのとりにくい利用者の表情や行動をみて、思いを把握するようにしています。	
31	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	利用者様の生活歴やライフスタイル、個性、価値観を把握しケアに活かしています。ご家族にも同意をして頂き、これまでの生活についてお話しを聞かせてもらっています。	
32	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	利用者の1人1人の1日の生活のリズムを把握しています。その日の行動を記録し、スタッフ皆で共有しています。	
<b>2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し</b>			
33	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	計画時、ご本人ご家族の意見を聞くことに努め、またスタッフからも気づいたことが反映できるようにしています。計画は、利用者本位の個別具体的なものとなっています。	
34	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	企画計画の実施期間は明示し、終了後は見直ししています。また、身体状況の変化や本人様の希望に変化があった場、再アセスメントし再プランニングしています。	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
35	○個別の記録と実践への反映  日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の暮らしの様子、身体状況やスタッフの気づきを個別に記録しています。見直し時には、モニタリングし記録しています。		
<b>3. 多機能性を活かした柔軟な支援</b>				
36	○事業所の多機能性を活かした支援  本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	介護保険サービスや自主サービスを組み合わせながら、利用者の暮らしの継続性を支援するための柔軟な対応を必要時には行っていきたいと思っています。		多機能性を活かした支援について、これからどのように展開していくかを多面的に検討していきたいと思っています。
<b>4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働</b>				
37	○地域資源との協働  本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	地域の民生委員さんと協力体制を図っています。子供会との連携をとり、慰問や行動に参加させていただいております。	○	地域の消防署と連携を取りながら、救命法の講習をおねがいしたりして共働した支援を展開したいと思っています。
38	○他のサービスの活用支援  本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	必要に応じて他のケアマネジャーと連携を図っています。	○	利用者から行政独自のサービスの希望があった場合、利用できるよう調整していきたいと思っています。
39	○地域包括支援センターとの協働  本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	成年後見制度等、事業所内では解決できない困難事例が生じた場合には、必要時、地域包括支援センターと連携し支援していきたいと思っています。		



項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
40	<p>○かかりつけ医の受診支援</p> <p>本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している</p>		
41	<p>○認知症の専門医等の受診支援</p> <p>専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している</p>		
42	<p>○看護職との協働</p> <p>利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている</p>		
43	<p>○早期退院に向けた医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している</p>		
44	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している</p>		
45	<p>○重度化や終末期に向けたチームでの支援</p> <p>重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている</p>		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
46	○住み替え時の協働によるダメージの防止  本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	リロケーションダメージについて全スタッフは理解しています。ダメージが最小限となるよう身体状況、習慣、好みを移行先への確に情報提供したいと思っております。		
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>				
<b>1. その人らしい暮らしの支援</b>				
<b>(1)一人ひとりの尊重</b>				
47	○プライバシーの確保の徹底  一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	利用者の誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応をしないよう常日頃話し合っています。記録等は目のつかない場所で管理しています。		
48	○利用者の希望の表出や自己決定の支援  本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	利用者の希望や関わりを理解し、力量に応じて自己決定できるように配慮し、生活に活かしております。		
49	○日々のその人らしい暮らし  職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	業務より、利用者の訴えを優先しています。利用者のペースやその日の希望、身体、精神状況に合わせた柔軟な支援を行っています。		
<b>(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援</b>				
50	○身だしなみやおしゃれの支援  その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	利用者の好みで衣服を選んだり、おしゃれできるよう支援しています。衣類や整容の乱れにはさりげなくサポートしています。		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
51 ○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、可能な場合は利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	メニューは、利用者の希望や好みに沿っております。苦手なものも把握し、別メニューにすることもあります。スタッフと一緒に食事する機会もあります。(昼食)食べこぼしなどもさりげなくサポートしています。		
52 ○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	嗜好品を把握し、一人ひとりの状況に合わせて楽しめるよう支援しています。		
53 ○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	一人ひとりの排泄パターンを把握しています。おむつの使用についても必要時検討しています。失禁等の対応は、利用者の羞恥心に配慮し速やかに行っています。		
54 ○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴習慣や好みを把握し、その方が意向が取り入れられるようにしています。入浴を拒否する利用者に対しては、声かけや対応等の工夫を行っています。(浴室に案内してから勧める等)		
55 ○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	身体状況に配慮しながら休息いただいております。睡眠パターンを把握し、安眠できるよう付き添ったりしています。眠剤について主治医と調整を行っています。		
<b>(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援</b>			
56 ○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	一人ひとりの生活歴と、そして現在の力量を把握し、役割やレクリエーションへの参加を促しています。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
57	○お金の所持や使うことの支援  職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	個人の尊厳のため、自ら金銭管理できるよう、ご家族とも話し合い、できる方にして頂き、スタッフが管理する場合も買物時は支払いを行ってもらう等の支援を行っています。		
58	○日常的な外出支援  事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	利用者の希望を反映させた外出の機会を月1回以上企画しています。その日の体調やその人の状況に応じた移動方法をとっています。		
59	○普段行けない場所への外出支援  一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	「行きたい所がありませんか」と日常的に声がけし、一人ひとりの願いを叶えられるようにしています。(必要時は家族と相談)希望がない場合には、こちらから働きかけをしています。		
60	○電話や手紙の支援  家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご家族より電話があった場合、「よかったですね」等の声がけをしています。手紙を投函したり、時に代筆、電話もダイヤルしてあげるなどの支援をしています。		
61	○家族や馴染みの人の訪問支援  家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	面会時間に関してご家族の都合に合わせて利用していただいています。		
<b>(4)安心と安全を支える支援</b>				
62	○身体拘束をしないケアの実践  運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	全スタッフは、身体拘束の弊害を理解し行わないケアを展開しています。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
63	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日常的に安全のため施錠していますが玄関へ出たいという要求がある場合、開錠し自由に入出入りしています。外出傾向のある方とは一緒に玄関に行く等注意を払っています。		
64	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	自室内はプライバシー保護のため看視していませんが、居場所は把握しています。ホール内は、全体が見守れ場所で見守りしています。		
65	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	注意を要する物品は施錠し保管しています。一人ひとりの状態に応じて考えられる危険性を再検討しています。		
66	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	ヒヤリハット、事故報告書の様式が整備されており、全スタッフが見られるように保管しています。事故に関して、スタッフでの話し合いを行い、共有・徹底が図られています。		
67	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	事故対策マニュアルが作成されており、応急手当について勉強会を催しております。	○	消防署による救命法の講習会を依頼します。
68	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	避難誘導策が作成され、いざという時に適切な非難場所が行えるよう訓練を行っております。災害発生時に備えて食品をストックしています	○	非常用、飲料水、保存食、毛布が1度で運べるような防災袋等も準備したいと思います。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
69	○リスク対応に関する家族等との話し合い  一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている	個別に起こり得るリスクを把握し、ご家族にも説明しています。利用者の状況変化等に随時、見直しています。		
<b>(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援</b>				
70	○体調変化の早期発見と対応  一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	一人ひとりの現疾患を把握しております。顔色や様子に注意を払い、変化や異変があった場合、すみやかに対応します。また記録に残し共有しています。		
71	○服薬支援  職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	スタッフは、現在服薬している薬に対する知識があり、変更になった時にはその薬に関して日誌にて、全スタッフが理解するよう体制を整えています。		
72	○便秘の予防と対応  職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	便秘の原因やその及ぼす影響は全スタッフ認識し、個々に合わせた排泄プランにて対応しています。		
73	○口腔内の清潔保持  口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	口腔ケアの重要性を認識しています。声かけ等の誘導にて、一人ひとりの能力に応じた支援を行っています。		
74	○栄養摂取や水分確保の支援  食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養バランスや好みに合わせたメニューとなっています。概、一日の摂取カロリーは、1000～1200kcalとなっています。食事量を記載、必要に応じ水分量も確認しております。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
75	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している（インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等）	感染症対応についてスタッフ全員周知している。また対応策について見直しを行うことにしています。		
76	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	台所や調理用具の衛生管理がマニュアル化され、全スタッフ徹底している。食材をムダにせず、新鮮な食材をしようとしています。		
<b>2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり</b>				
<b>(1)居心地のよい環境づくり</b>				
77	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	事業所に入りやすい雰囲気作りを行っています。		
78	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	備品、調度品は家庭的をチョイスし配慮しています。季節感のあるディスプレイをし明るさも適当なものとなっています。		
79	○共用空間における居場所づくり 共用空間の中には、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	入居者同士で囲らできるスペースがあり、一人ひとりの席が決まっているので、プライベートな空間の役割りを果たしています。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
80	○居心地よく過ごせる居室の配慮  居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好み のものを活かして、本人が居心地よく過 ごせるような工夫をしている	リロケーションダメージ対策として、なじみの物 を自室に準備していただくようにお話ししてい ます。		
81	○換気・空調の配慮  気になるにおいや空気のだよみがないよ う換気に努め、温度調節は、外気温と大き な差がないよう配慮し、利用者の状況に応 じてこまめに行っている	空調に配慮し、できる限り換気扇を作動させてい ます。温度計を設置し適切な温度・湿度管理を 行っています。トイレの臭いに対して、消臭剤等 十分配慮しています。		
<b>(2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり</b>				
82	○身体機能を活かした安全な環境づくり  建物内部は一人ひとりの身体機能を活か して、安全かつできるだけ自立した生活が 送れるように工夫している	廊下、トイレ、浴室等、要所に手すり等を設置し ています。段差のないフロアとなっており、常時 車椅子を準備し、必要時すぐ利用できる配慮して います。		
83	○わかる力を活かした環境づくり  一人ひとりのわかる力を活かして、混乱 や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工 夫している	事業所内には混乱を招かないよう紛らわしい表示 はしていません。各部屋の扉が同形なので混乱を 防ぐため、個々のネーム入りポストを手作りで作 成し、表示してしています。		
84	○建物の活用  建物を利用者が楽しんだり、活動できる ように活かしている	玄関先にベンチを設置して利用者が憩ぐ場所と なっています。ベランダで自家裁園を行い、水や りや収穫など、なじみの生活が継続できるよう工 夫しています。		

(  部分は外部評価との共通評価項目です )



V. サービスの成果に関する項目		取 り 組 み の 成 果 (該当する箇所を○印で囲むこと)
項 目		
85	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○ ①ほぼ全ての利用者の ②利用者の2/3くらいの ③利用者の1/3くらいの ④ほとんど掴んでいない
86	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○ ①毎日ある ②数日に1回程度ある ③たまにある ④ほとんどない
87	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
88	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
89	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
90	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
91	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
92	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○ ①ほぼ全ての家族と ②家族の2/3くらいと ③家族の1/3くらいと ④ほとんどできていない
93	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○ ①ほぼ毎日のように ②数日に1回程度 ③たまに ④ほとんどない

項 目		取 り 組 み の 成 果 (該当する箇所を○印で囲むこと)
94	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	○ ①大いに増えている ②少しずつ増えている ③あまり増えていない ④全くいない
95	職員は、生き活きと働けている	○ ①ほぼ全ての職員が ②職員の2/3くらいが ③職員の1/3くらいが ④ほとんどいない
96	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
97	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ ①ほぼ全ての家族等が ②家族等の2/3くらいが ③家族等の1/3くらいが ④ほとんどできていない

**【特に力を入れている点・アピールしたい点】**

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

弘前2では、利用者さんの健康維持目的で独自の運動を考案し、施行しています。「青い山脈」と曲に振り付けをし、皆さん一緒に歌を合唱しています。